

開催地名：青森県弘前市	
開催日時	令和2年1月25日（土） 10：30～12：00
開催場所	弘前市観光館
語り部	山田 修生 （宮城県仙台市）
参加者	防災マイスター 約70名
開催経緯	<p>当市では、近年大きな災害が発生していないため、市民の防災に対する意識が低いことが大きな課題となっている。そこで今回は、市の防災士養成講座である防災マイスター講座の修了者に対し、被災者の実体験について講演していただき、防災意識の向上を図りたい。</p>
内容	<p>（1）防災訓練の実施について</p> <p>総合防災訓練等の各自治体で実施されている防災訓練は、土・日の9時に学校集合といった形で、スケジュールに沿って計画され、実施されている。ところが、災害はいつどこで発生するか誰もわからない。また、通常の防災訓練では、家庭から1名代表者が参加することでよしとしてしまう傾向が強く、家族全員が、緊急時の対応について共有していない状況である。このような現状を少しでも改善していく必要があると強く思う。</p> <p>また、防災マイスターの皆さんは、災害発生と同時に自分が何をやるべきかわかっていると思うが、それでも実際に大規模な災害に直面すれば、このまま死んでしまうのではないかといった思いが頭をよぎり、一定の時間は何も考えられず、何もできなくなってしまう。通常のマニュアル等では、そのあたりの事情については一切考慮されていないので、是非とも、この思考が停止した状態を想定した防災訓練についても、実施を検討いただきたいと思う。</p> <p>防災マイスターの皆さんとしては、日常から、災害時の対応法や行動について、周りの人たちとの連絡会議を頻繁にやっていただいた方がよいと思う。連絡会議の実施から期待できる効果の一つは、自助体制の強化である。災害発生時には、自助が基本である。共助・公助は100パーセント期待できない。防災マイスターの皆さんが地域の住民や近隣の学校とも連携し、自助体制をどう強化していくかということを、連絡協議会の議題として活動していくことが肝要であると思う。</p> <p>（2）東日本大震災をふまえて</p> <p>もし可能であるならば、皆さんの自宅の中に、家族の皆さんが地震のときに逃げ込む部屋を準備しておいていただきたい。その部屋には家財道具も何も一切置かないということが肝心である。もし地震があった場合、家族全員がその部屋に逃げ込む。何もないからけがする心配もない。</p>

東日本大震災の発災は午後2時46分であった。その時間帯は、仕事をしている人は職場に、学生は学校にいる。従って、自宅に男性がいるケースは少なく、女性と高齢の方が中心であった。そこで、防災訓練・避難訓練を計画・実施するに当たり、女性中心の避難訓練をできる限り計画していただき、実施していただくことをお薦めしたい。平日の日中に発災という想定が望ましい。女性中心の防災訓練、要援護者対応について、実地的な訓練の検討を是非お願いしたい。

また、避難所で困ったことは、寒さや空腹の問題（毛布や暖房設備、食料の備蓄）とあわせて、トイレの問題が挙げられる。単純に数が少ないということの他に、高齢者、体の不自由な方のトイレの問題がある。高齢者や体の不自由な方専用のトイレを設置することを是非検討していただきたいと思います。

(3) まとめとして

自主防災組織の方についても、自分の命を守ることが最優先であることを肝に銘じていただきたい。そして、いつでも、どこにでも発生する可能性がある自然災害の怖さを知る機会を、一般市民の皆さんに是非設けていただきたいと思う。

最後に、身に付けた知識・経験の全ては決して裏切らないということを申し上げたい。そういう意味で、防災訓練は絶対必要であり、とにかく様々な形で様々な状況を想定して、訓練を積み重ねていただければと思う。



開催地より

東日本大震災時の体験談を交えながらわかりやすいお話をしていただいた。本日参加いただいた防災マイスターの方々には、防災について再認識してもらったいい機会になったと思う。